東日本大震災復興支援
生活支援相談員ニュースレター～VOL. 25～
平成30年1月発行

【発行】
社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会　地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ
岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7532

～複雑化するケースに対応するために～　効果的な事例検討の手法を学ぶ

平成29年11月6日～7日、花巻温泉ホテル千秋閣で生活支援相談員等活動研究会を開催し、県内の市町村社協の生活支援相談員等76名、熊本県内社協視察団19名が参加しました。

神奈川県立保健福祉大学名誉教授の山崎美貴子先生、淑徳大学総合福祉学部准教授の山下興一郎先生を講師に迎え、講義・事例検討等を行いました。山崎先生、山下先生からは、複雑化するケースに対応するために、（専門的ではなくても）広く社会資源を知っていること、住民を資源として捉えた地域づくりを行う視点が必要であることを助言いただきました。

県内参加者の事前提出事例は、61事例で、内訳（重複あり）は下記のとおりとなりました。

- 22事例/61事例中(36.1%)：「健康・不安」関連記述
- 20事例/61事例中(32.8%)：「孤立、寂しい、不満」関連記述
- 20事例/61事例中(32.8%)：「支援拒否、環境不衛生、家庭内暴力、サービス利用等支援が必要」記述
- 15事例/61事例中(24.6%)：「困ってない、大丈夫、拒否、面倒」関連記述
- 15事例/61事例中(24.6%)：「死」関連記述
- 9事例/61事例中(14.8%)　：「引越し、住宅等に課題」記述
- 7事例/61事例中(11.5%)　：「自治会、住民活動に課題」記述
- 7事例/61事例中(11.5%)　：「認知症」関連記述

山崎先生、山下先生から挙げられた事例の特徴及び講義のポイントは下記のとおりです。

～事前提出事例の特徴～

- 独居…半数が独居世帯の事例
- 家族と繋がっていない人…仮設入居や働く場所等震災により家族が細分化され、生活支援相談員が“つむぎ直し”をしている事例が多い
  ※ 特に高齢者は「子供に負担をかけたくない」という心情がある
  ※ 8050・9060問題として働かない息子・年金搾取がある
- 心の課題の継続…災害による心の傷の上に、更に「不安」「孤独」が重なる
  地域と繋がれるだろうか？という不安がある
- 「死」関連記述が2割強…非常に多い。再建期における今後の不安（コミュニティ・人との繋がり）が関連している

～講義のポイント～

○　人や支援と繋がりにくい人の支援をどのようにするか（支援の手立てはなにか）
- 孤独をどう防ぐか。生きることは支え合うことである
- 繋がりにくい人はどんな人か？どうして繋がりにくいのか？を捉える
  ※　個人の歴史・喪失体験・性別・趣味や仕事・年齢に様々なヒントがある
  ※　ヒントから「繋がれそうな人はどんな人か」多角的にその人を捉える
- 「人」が「人を支える資源」になる

○　孤立の人とは、自分の心を閉ざす・人とのつながりが面倒くさい人　←早い介入が必要
→　最終的に「どうせ自分なんか…」という否定的意識にとらわれる
→　結果、人間関係が途絶え、相談（信頼）できる人がいなくなる　⇒ 孤立する

○　孤立を防ぐために支援者ができることは、見つけること・気づくこと　→その人の周りの関係づくりをしていくこと
- 「どこなら繋がる？」「誰なら話す？」「どうしたら心を開く？」をヒントに、繋がりを探すためには、しっかりとしたアセスメント（情報収集）が重要である
- 関わり方の特性を探る→同じ手法は通じないかもしれない。どんな手立てが有効か、何を（誰を）資源とするか。知恵を出し合い、根気勝負で頑張りましょう

なお、事例検討では、８月に本会が開催したスキルアップ研修会の受講者を進行役とし、講師との打合せを経て、グループごとに行いました。

奥州市姉体地区でサロンが立ち上がりました

奥州市水沢区姉体地区には、沿岸出身の内陸避難の方が多く生活されています。沿岸出身の方々が集い、相談できる仲間の輪を作ることを目的に、奥州市社協生活支援相談員が、地元のＮＰＯ団体とともに、サロンを立ち上げました。

平成 29 年 12 月 19 日（火）10 時から、北姉体会館で、「お正月ミニ寄せ植え」「しめ縄・しめ飾りづくり」が開催され９名が参加しました。

呼びかけ人や寄せ植え・しめ縄づくりの講師は参加者が担い、「みんなの笑顔が見られてよかった」「一緒に作業をすると話が弾む」と喜びの声が挙がりました。

サロンに参加して初めて知り合った方でも、同郷の話題や、沿岸特有のならわしの話題で盛り上がり、今後、同じ地区に住む仲間としてのネットワークづくりに繋がっています。

サロン終了後に次回の内容を参加者で話し合い、旧正月に合わせて「みずき団子作り」が提案されました。

奥州市社協生活支援相談員は「参加者の負担にならないようなペースで寄り添いながら、継続していきたい」と今後のサロン活動展開に奮闘しています。

なお、制作したしめ縄は、後日、市内の独居高齢者（内陸避難者）等に配付されました。